
夜のドライブVer.2 ~故障~

結城陸空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜のドライブVer.2 ～故障～

【Nコード】

N8663B

【作者名】

結城陸空

【あらすじ】

君の車は夜遅くに山奥で故障していたね。この車に会えた君は幸運だね。急いでるんだったら乗るといいよ。この車に。

(前書き)

グループ小説企画の作品です。二人称小説ってテーマのようです。
他の先生の作品はグループ小説や二人称小説で検索すると見れます。

君はあの日、車が故障してとても困っていたね。こんな山奥で、時間も夜遅くだったっていうのに。

偶然にも出会えたからよかったものの、もし出会ってなければ君は何時間もかけて街まで歩かなければならないところだったね。

君を乗せた車には君以外に四人の人間が乗っていたんだ。君以外は全員友達だ。全員で山奥までバーベキューをしにいった帰りだったんだ。君は車に乗る時に言ってたね。祖母が倒れたから早く病院に行きたいって。

君の表情などを見ると、とても急いでいるのが手に取るようにわかったよ。こんな山奥で車が故障して一人きり、早く病院にいきたいけど足がない。こんな時にこの車に出会えた君は本当に幸運だよね。

だから君がそんな場合じゃないのは分かっていたけど、みんなテンションが上がってる。バーベキューですごく盛り上がったからね。車内でもみんな大声で歌を歌ったり、君を口説こうとしたり、ほんとは常識な奴らばっかりで君は困りながらも、車に乗せてもらったお礼の意味を込めてなのか、そんなみんなに合わせてくれていたね。

君のおかげで、車内はほんとに楽しい雰囲気になったね。

あの日は休日だったから、みんな仕事のこととか、嫌なこととか忘れて遊びにいった。君は思わない？ 仕事やってたらストレスは溜まるし、生きてても特に楽しいこともないんだから、たまには

思いっきりハメをはずしたいって。

みんなそう思って、遊びにいったんだ。でもみんな中途半端は嫌みたいなんだ。だからこんな夜遅くまで時間がかかってしまった。でもそのおかげで君はこの車に乗ることができたんだから偶然ってすばらしいよね。

車内は男ばかりだったからさ。女の子が入ってとても嬉しかったんだ。みんな喜んでた。みんなのテンションの高さを見れば君も分かっただろ？ みんな仲間を欲しがってた。

実は、みんなあの日が初対面だったんだ。ネットで募集して集まった仲間なんだ。ネットでは長い付き合いだけど、実際にあつたのはあの日が始めて。みんな社会が嫌になって集まったんだ。だから君も始めてだけでもう友達だ。

君にその話をしたら、急に車を降りるって言い出したね。ちょっとビックリしたかな？ でもここから街まではまだ距離があるし、こんなところを一人で歩いて野犬にでも襲われたりしたら大変だから男としても人間としても降ろすわけにはいかない。なにより君はもう仲間なんだから。

みんな、あの日という日を楽しんだんだ。それはもうお祭り騒ぎさ。人生で一番楽しいときだったと思うよ。一度くらいあつたっていいと思わない？ 人生で一番楽しい瞬間ってのがさ。毎日毎日仕事に追われる日々じゃなく、そんなこと全て忘れて無になれる時がさ。

車はだんだんと山を降りていく。途中たくさんの曲がり角があつて、ガードレールで仕切られてるけどそこを越えると崖から真つ逆

さま。みんなドライブ気分、いやお祭り気分でハイテンションだったね。君も車内で暴れて暴れてもう手がつけられないくらいだった。全員が車内でハイテンション。そうやって全て忘れて、全て終わりにしたんだ。

曲がりくねった道なのに誰もハンドル操作なんかしていない。する気もない。みんなそのために集まったんだから。今日は人生で一番楽しい日。ハメをはずして全てを忘れて。お祭り騒ぎで。人生最後の夜を楽しむ。この集まりは『集団自殺サークル』。君も、仲間だ。

ガードレールを突き破って、真っ逆さまに落ちていく車。とても浮遊感があった。地上についた途端、大爆発を起こして、車内にいた人間はみんな即死だった。

君の車はあの日故障したけど、みんなの心はとっくの昔に故障していたんだよ。

ああ、そうそう。一つ言い忘れてた。君の車が故障してたのはほんとに幸運だったよ。もともとは歩いて帰る予定だったんだけど、君が急いでいるようだったから、代わりに残って君の車を直してたけど、君の車がすぐに直ったおかげで、歩いて帰る必要がなくなった。こんな山奥から歩いて帰るのは大変だからね。

みんな自殺したと思ってるところがなかなか笑えるだろ？ ほんとは、『集団自殺サークル』って言う名目を被った『殺人サークル』なんだけどね。これで君を含め四人の人間を殺せた。この車は次の殺人の道具として使わせてもらうよ。

それにしても君の車が故障していて、君が代わりに車に乗ってくれたおかげで幸先のいいスタートが切れたよ。

君はほんとに、幸運な人間だね。

了

(後書き)

読んでいただきありがとうございます。初の二人称小説です。二人称小説ってこれであっているのか不安ですが、がんばりました。感想、指摘等くださると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8663b/>

夜のドライブVer.2 ~故障~

2010年10月11日15時34分発行